

# 第35期 中間報告書

平成26年4月1日 ▶ 平成26年9月30日

証券コード: 7575

...for patient comfort.



**JL** Japan Lifeline

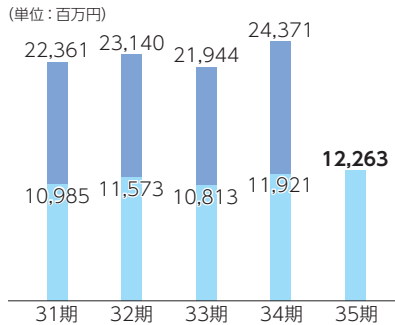
# 主要連結財務データ

## Financial Highlights

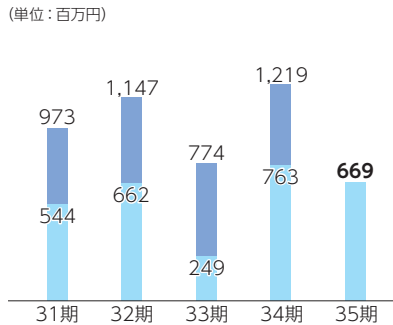
### 当上半期のポイント

- 売上高は、新商品が好調に推移したこと等から、保険償還価格引き下げの影響を吸収し前年同期比2.9%増加
- 売上総利益率は、自社グループ製品の売上構成比の上昇により前年同期比1.4ポイント改善
- 営業利益は、自社製品の開発及び薬事関連費用を中心とした販売費及び一般管理費増加の影響により前年同期比12.3%減少

#### 売上高

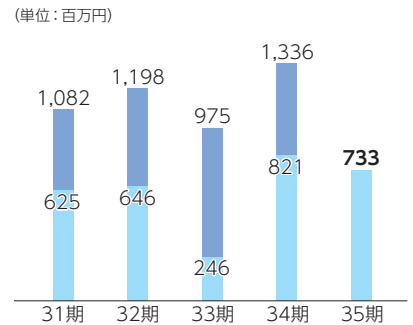


#### 営業利益

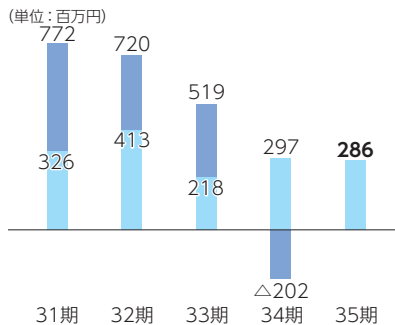


■ 第2四半期累計 ■ 通期

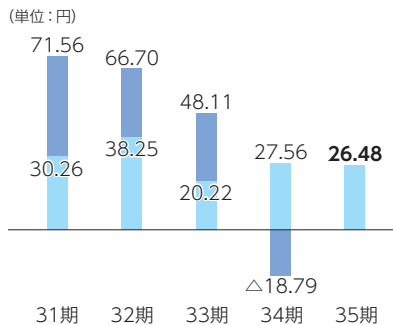
#### 経常利益



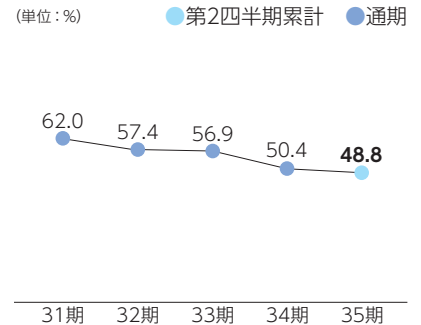
#### 四半期(当期)純利益



#### 1株当たり四半期(当期)純利益



#### 自己資本比率



### ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期におきましては、4月に実施された保険償還価格の改定による影響がありましたものの、自社グループ製品をはじめとして、新商品が寄与したことにより、前年同期を上回る販売実績となりました。

下半期におきましても、医療現場の求める優れた医療機器の提供に努め、一層の業績拡大に向け邁進してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介



### Q 上半期の業績について教えてください。

**A** 当上半期におきましては、本年4月に医療機器の公定価格である保険償還価格の改定が実施され、当社の取扱商品の全般にわたって価格が引き下げられました。こうしたマイナスの影響に対して、EP/アブレーションや外科関連で導入した新商品が大きく伸長したことにより、前年同期に比べ増収となりました。

また、利益面におきましては、自社グループ製品の伸長による売上総利益率の改善があったものの、製品の開発費用や商品導入のための薬事関連費用の増加、さら

に前年同期には連結対象外であった子会社3社が前期末から連結対象となったことなどにより、営業利益以降の各段階利益におきましては減益となりました。

### Q 各品目の販売状況について教えてください。

**A** リズムデバイスにおきましては、MRI(磁気共鳴画像)検査に対応した心臓ペースメーカが、商品ラインナップに無い状態が続いていることから、販売数量が前年同期に比べ減少いたしました。しかしながら第4四半期にはMRI対応商品の導入を予定しており、

販売数量の回復に努めてまいります。

EP/アブレーションにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景として、オンリーワン製品である心腔内除細動システムの普及が進み、専用カテーテルである「BeeAT(ビート)」の販売数量が順調に増加いたしました。さらに同じくオンリーワン商品であり、昨年5月より販売を開始した高周波心房中隔穿刺針「RFニードル」も伸長いたしました。

外科関連におきましては、低侵襲な治療方法として症例数が増加している胸部用ステントグラフト「RELAY Plus(リレイ・プラス)」が一定のシェアを獲得し堅調に推移したほか、本年7月に発売したオンリーワン製品である「J-Graft(ジェイ・グラフト)オープンステントグラフト」の販売数量が想定を上回るペースで増加いたしました。

またインターベンションにおきましては、バルーンカテーテルとしては初の自社製品である「canPass(キャンパス)」の販売数量が順調に伸長したことに加え、独自の構造により手技の効率化が可能な貫通用カテーテル「Guideliner(ガイドライナー)」につきましても、好調な販売となりました。

### Q EP/アブレーションの成長について教えてください。

A 高齢化等を背景として、循環器関連の疾患は増加傾向が続いており、カテーテルを用いたアブ



レーション治療は、低侵襲であるとともに根治につながる治療方法として、積極的に実施されており症例数が増加しております。こうした中で当社は、自社製品であるEP(電気生理用)カテーテルおよびアブレーションカテーテルに加え、2012年にオンリーワン製品である心腔内除細動システムを、また昨年5月には高周波心房中隔穿刺針といった独自の医療機器を相次いで導入し、EP/アブレーションを中核事業として育ててまいりました。

さらに第4四半期には、治療の安全性向上への寄与が期待される食道温モニタリングシステムの導入を予

定していることに加え、来期の上市を目指し、イリゲーション機能を持つアブレーションカテーテルの導入準備を進めております。当社といたしましては、心房細動治療の関連製品を総合的に提供できる商品ラインナップを整備することで、成長市場における競争力をさらに高めてまいります。

## Q オープンステントグラフトの販売状況は いかがでしょうか？

A 本年7月より、オンリーワン製品である「J-Graftオープンステントグラフト」の販売を開始いたしました。この製品は胸部の弓部大動脈瘤の治療に用いる医療機器であり、内側に網状のワイヤーを縫い付けた人工血管を、収縮した状態で大動脈内に挿入し、ワイヤーの拡張力により血管の内側に留置し治療します。開胸手術を伴うものの、心臓から末梢側の吻合が不要であり、開胸部位を小さく抑えられることから、従来の人工血管のみによる方法に比べ、低侵襲な治療が可能であるという特長を有しております。

本製品を用いた治療は、弓部大動脈瘤の治療を低侵襲に行うための新たな選択肢として、医療現場における認知が急速に広まっております。販売数量は7月の発売直後より、当初の想定を大幅に上回って推移しており、今後の業績への寄与が期待されます。

## Q

### 通期の見通しはいかがでしょうか？

A 下半期におきましては、上半期に引き続きEP/アブレーションや外科関連の新商品の普及が進み、販売数量が安定的に増加する見通しであることから、通期としても当初予想を上回る売上高を見込んでおります。

また、販売費及び一般管理費におきましては、商品導入計画の変更に伴い、下半期に予定しておりました薬事関連費用の一部の支出が見込まれなくなったものの、上半期に未執行であった経費予算のうち、広告宣伝費や製品開発に関わる費用等の発生を見込んでおります。

以上のことから、本年5月2日に公表した通期業績予想を上方修正しております。

## ■ 2015年3月期通期業績予想

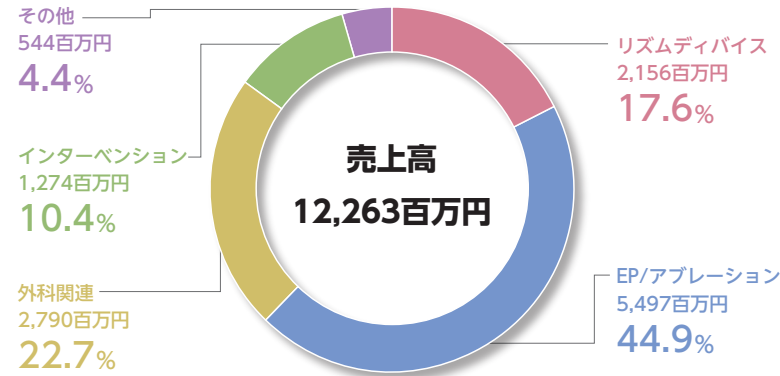
(2014年10月24日付)

売上高	25,749百万円(前期比 5.7%)	
営業利益	1,751百万円(前期比43.6%)	
経常利益	1,800百万円(前期比34.7%)	
当期純利益	903百万円	

# 品目別売上高

## Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



### リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比  
**17.6%**

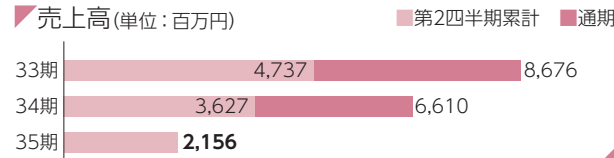
#### 主要取扱品目

- 心臓ペースメーカ
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカ

心臓ペースメーカ関連におきましては、MRI (磁気共鳴画像) 検査に対応した商品の導入が他社に比べ遅れていることから、前年同期に比べ販売数量が減少いたしました。  
また、ICD 関連におきましては、厳しい競争環境を反映し、販売数量が前年同期に比べ減少いたしました。  
以上により、リズムデバイスの売上高は21億5千6百万円 (前年同期比40.5%減) となりました。



### EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比  
**44.9%**

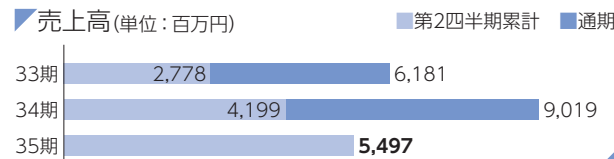
#### 主要取扱品目

- EP (電気生理用) カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル



心腔内除細動カテーテル

EPカテーテルにおきましては、オンリーワン製品である心腔内除細動システムの普及が進み、その専用カテーテルである「BeeAT」の販売数量が増加いたしました。また、同じくオンリーワン製品であり、昨年5月より販売を開始した高周波心房中隔穿刺針「RFニードル」につきましても、販売数量が順調に増加いたしました。  
以上により、EP/アブレーションの売上高は54億9千7百万円 (前年同期比30.9%増) となりました。



### 外科関連

血管や心臓の弁を置き換え  
治療する医療機器を扱う

売上高構成比  
**22.7%**

#### 主要取扱品目

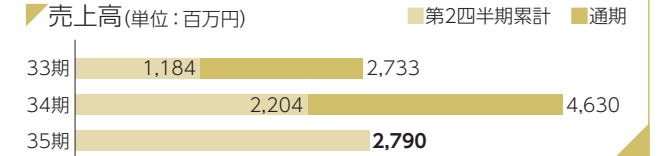
- 人工血管
- 人工心臓弁
- 人工肺
- ステントグラフト
- 人工弁輪



生体弁

人工血管関連におきましては、本年7月より、国内初となる「J-Graft オープンステントグラフト」の販売を開始いたしました。さらに、昨年5月より販売を開始した胸部用ステントグラフト「RELAY Plus」が、引き続き販売数量を伸ばしたこと等から、人工血管関連の売上高は前年同期比51.4%の増加となりました。

また、人工弁関連におきましては、概ね前年同期水準の販売実績となりました。  
以上により、外科関連の売上高は27億9千万円 (前年同期比26.6%増) となりました。



### インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比  
**10.4%**

#### 主要取扱品目

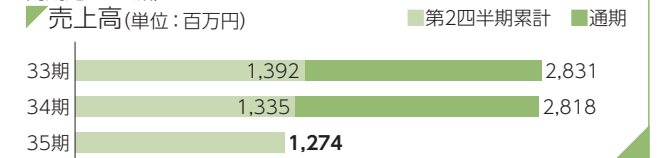
- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー



ガイドワイヤー (イメージ図)

バルーンカテーテルにおきましては、初の自社製品である「canPass」が本年4月の販売開始以降、順調に販売数量を伸ばしました。また、ガイドワイヤーにおきましては、末梢血管用の製品の販売数量が増加した一方、主力である冠動脈用の製品は、競合製品の影響により販売数量が減少いたしました。さらに、本年3月より発売した貫通用カテーテル「Guideliner」の販売数量が順調に増加いたしました。

以上により、インターベンションの売上高は12億7千4百万円 (前年同期比4.5%減) となりました。



### その他

連結子会社で販売する  
血液浄化装置等の医療機器

売上高構成比  
**4.4%**

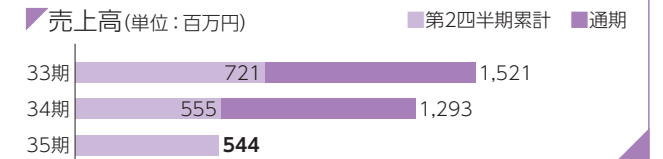
#### 主要取扱品目

- 血液浄化関連商品



血液浄化装置

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等の、その他の売上高は5億4千4百万円 (前年同期比2.0%減) となりました。

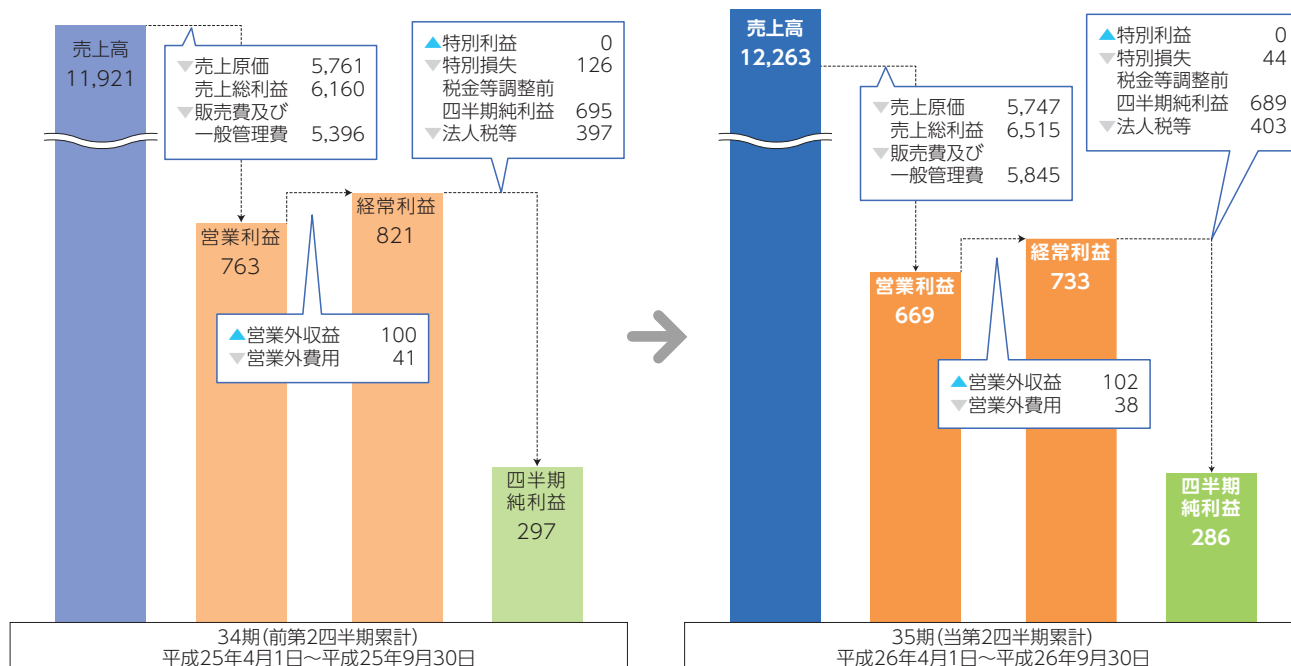


# 連結財務諸表

## Consolidated Financial Statements

### ■ 四半期連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



決算の  
ポイント

#### 営業利益

保険償還価格の引き下げがマイナス要因となった一方で、収益性の高い自社グループ製品の売上構成比が上昇したことから、売上総利益率は前年同期に比べ1.4ポイント改善いたしました。その一方で、自社製品の開発及び商品導入に伴う薬事関連の費用が増加していることに加え、前年同期には連結対象外であった子会社3社が前期末より連結対象となっていること等から、販売費及び一般管理費が前年同期に比べ増加いたしました。

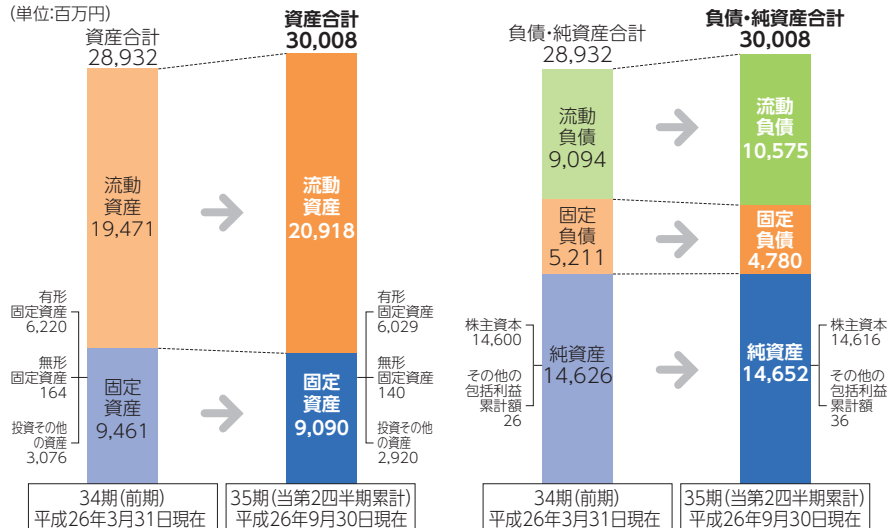
以上により、営業利益は6億6千9百万円(前年同期比12.3%減)となりました。

#### 四半期純利益

為替差益等の営業外収益を1億2百万円、支払利息等の営業外費用を3千8百万円、また、固定資産除却損及び投資有価証券売却損等の特別損失を4千4百万円計上したことから、四半期純利益は2億8千6百万円(前年同期比3.9%減)となりました。

## ■ 四半期連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



## 決算のポイント

### 流動資産

現金及び預金が9億7千5百万円、受取手形及び売掛金が2億7千万円増加したこと等により、流動資産は前期末より14億4千7百万円増加し、209億1千8百万円となりました。

### 流動負債

支払手形及び買掛金が14億3百万円増加したこと等により、流動負債は前期末より14億8千万円増加し、105億7千5百万円となりました。

### 固定負債

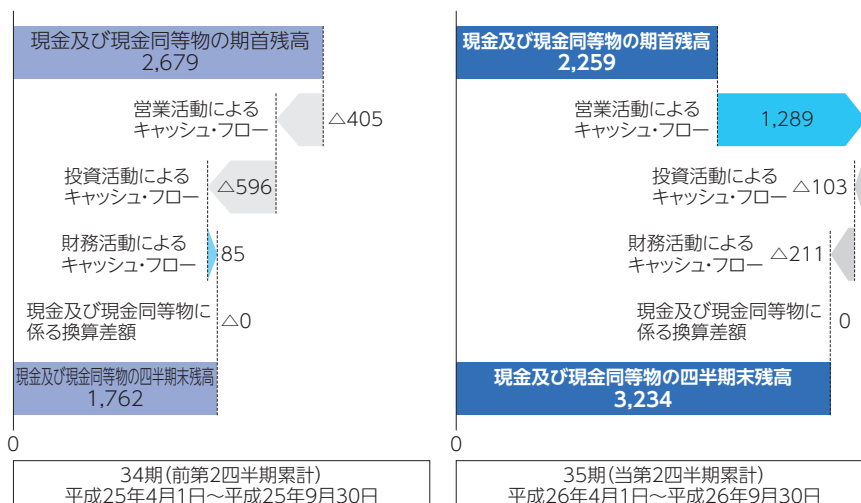
長期借入金が約定返済により3億9千3百万円減少したこと等により、固定負債は前期末より4億3千万円減少し、47億8千万円となりました。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務の増加による収入が14億3千3百万円となったこと等により12億8千9百万円の収入となりました。

## ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)





# 会社概況

## Corporate Data

### ■ 会社概要

(平成26年9月30日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結771名 単体581名
上場取引所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社 SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司 株式会社ハートブレーン

### ■ 役員

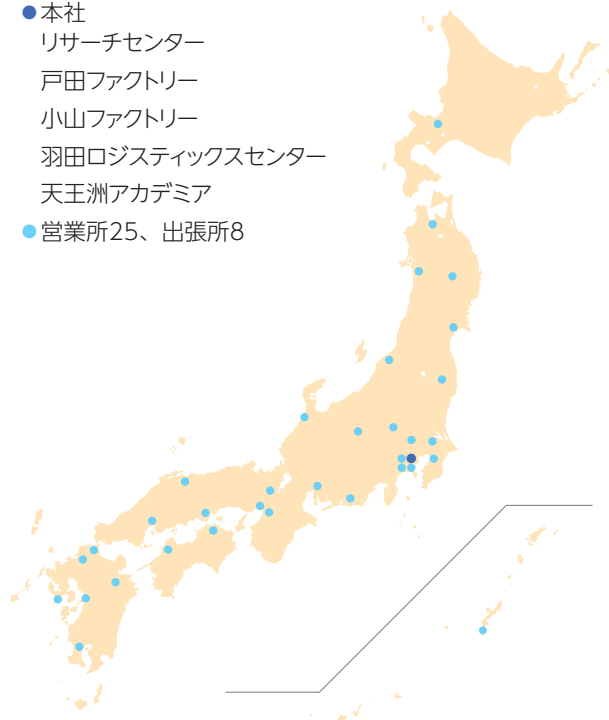
(平成26年9月30日現在)

代表取締役会長	増本 武司	常勤監査役	神谷 安恒
代表取締役社長	鈴木 啓介	社外監査役	中村 勝彦
取締役副社長	鈴木 厚宏	社外監査役	浅利 大造
専務取締役	政次 浩二		
常務取締役	高橋 省悟		
取締役	長濱 岳司		
取締役	黒沼 孝之		
社外取締役	佐々木文裕		

### ■ 事業所

(平成26年10月1日現在)

- 本社  
リサーチセンター  
戸田ファクトリー  
小山ファクトリー  
羽田ロジスティックスセンター  
天王洲アカデミア
- 営業所25、出張所8



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.jll.co.jp>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧いただけます。

投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



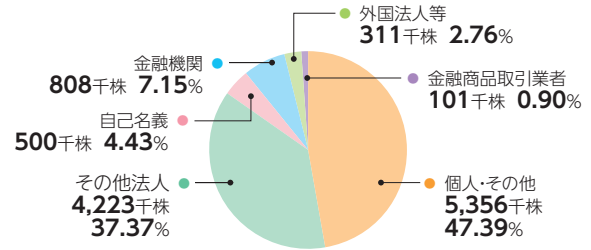
### 株式の状況 (平成26年9月30日現在)

発行可能株式総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	4,010名
大株主	

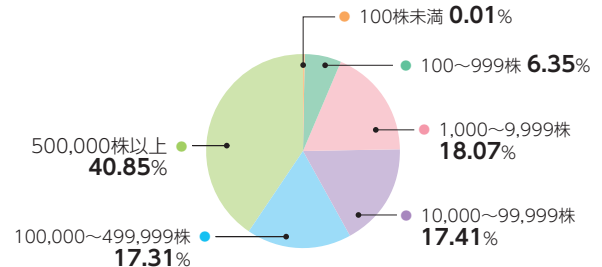
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	3,020	27.96
KS商事株式会社	1,096	10.15
鈴木啓介	331	3.07
増本武司	307	2.85
日本証券金融株式会社	246	2.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	236	2.19
日本ライフライン従業員持株会	199	1.84
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニパス アカウント	174	1.62
上田勝啓	134	1.24
長濱岳司	116	1.07

(注) 1. 上位10名に記載していない500,541株を、自己株式として保有しております。  
2. 持株比率は、自己株式(500,541株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布

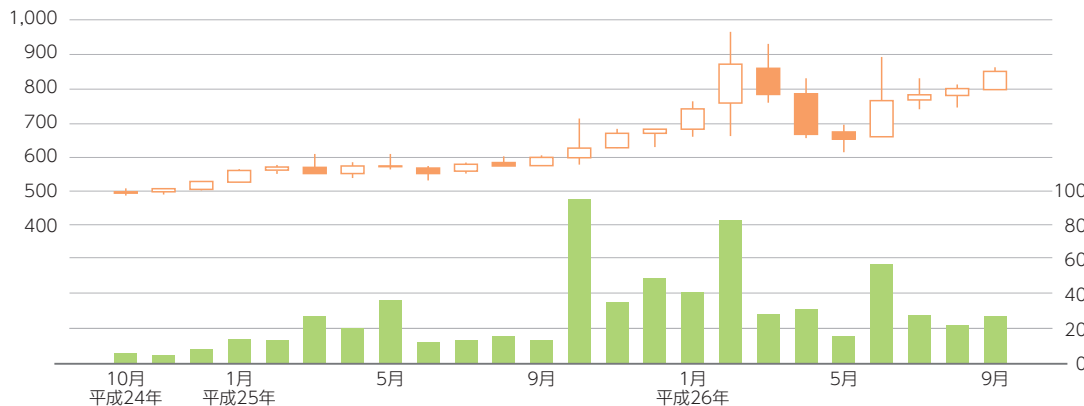


### 所有数別株式分布



### 株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.jll.co.jp">http://www.jll.co.jp</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	<a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
  - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様  
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について  
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

## 日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号  
電話 03-6711-5200  
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。